

岩沼市民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 3 月 15 日掲載)

(1) 岩沼市の被災状況について

東日本大震災では、岩沼市は震度 6 弱の地震に襲われました。津波により地域の約 48%が浸水し、市民 150 名の貴い命が犠牲となりました。平成 24 年 11 月 30 日時点での住宅被害は、全壊 736 戸、大規模半壊 509 戸、半壊 1,097 戸、一部損壊 3,086 戸が確認されています。

市民児協としては、震災後の支援活動を続けるなかで、人と人とのつながりがますます必要になることを強く受け止め、「絆」を重要なキーワードとして日々の活動に取り組んできました。以下、発災後からの活動をご紹介します。

(2) 民生委員児童委員の現在までの活動

① 発災直後から同月（平成 23 年 3 月）末まで

- 町内会、自治会等と連携した高齢者や障がい者の安否確認と見守り。
- 提供された支援物資の配布や給水ボランティア等の地区活動。
- 炊き出し等の避難所運営の協力。

町内会、自治会等と連携した対応が中心となりました。また、沿岸被災地である東部地区の民生委員・児童委員の中には、自らも被災により避難所生活を送りながら、地域の人々の支援に加わった委員もいます。この時期は、物資や情報の不足が委員活動を制限していたことが課題となりました。

② 平成 23 年 4 月から同年 9 月頃

- 支援物資の仕分けや送付。
- 生活福祉資金貸付の受付や案内。
- 災害ボランティアセンターの受付（ボランティアの受付・登録事務の協力）。

3 月中の活動として、新たに市社会福祉協議会の活動協力が加わりました。ボランティアセンターの受付には、5 月 7 日から 7 月 31 日までの間、毎日 4、5 名、延べ 304 名が協力しました。なお、この間全国からボランティアとして延べ 2 万 6,135 名の方々に登録、活動をいただきました。この時期は、被災者に係る情報把握の難しさ、こころのケアや被災者支援のあり方について、どこに、どのようにつなぐのか、などが課題となりました。

(3) これからの民生委員児童委員の活動について

一昨年 3 月 11 日の未曾有の大震災、大津波から 2 年になります。

昨年度は、震災からの復旧に追われ、発災直後から民生委員・児童委員は、その責務を全うしてきました。2 年が経過する現在では、被災された方々にも笑顔が見られるようになりました。しかしながら、地域を取り巻く状況は相変

わらずさまざまな問題を含んでいます。厳しい景気、雇用環境の変化、高齢者の増加によるさまざまなひずみ、虐待問題、孤立死など多くの住民が身近にいろいろな問題を抱えながら生活をしています。私たち民生委員・児童委員も例外ではないでしょう。震災による状況の変化もあり、これまでとは違う対応が必要になるケースも表れています。

これからの活動としては、復興に向けた歩みを進めていくなかで、被災者の支援への積極的な取り組みとともに、震災以前より進めていた地域の活動にもしっかりと取り組まなくてはならないと思います。

震災により十分行なえなかった事業を中断することなく継続することも大切です。ひとり暮らし高齢者等の災害時要援護者の安否確認・避難体制づくりもそのひとつです。いつまた大災害が起こるかわかりません。日頃の地域での見守り活動、定例会や視察研修、研究部会活動など基本的な活動を続けることが大切です。前述のとおり、地域には、取り組むべき課題はたくさんあります。地域において支援を必要とする方の把握、適切な支援のための見守りネットワークづくりなど、地域住民と一体となって日々活動していきたいと思っています。

(4) 終わりに・・・感謝を込めて

震災により、「絆」の大切さにあらためて気づきました。また、日頃の活動の継続こそが新たな支え合いづくりにつながる、という意識のもと民児協活動を続けてきました。このことは、全国の民生委員・児童委員の皆様からの温かいご支援があったからこそと、深く感謝しています。ありがとうございます。

岩沼市民児協においては、皆様からの支援、感謝を忘れることなく、被災地の民児協としてその活動を広くご紹介していくことも大切な使命であると考えています。

平成24年1月には、静岡県袋井市民児協よりお招きを受け、袋井市主催の研修会にて私たちの体験や活動事例をご紹介しました。(研修の様子は、静岡県民児協だより「東日本大震災に学ぶ」として掲載していただきました。) また、他府県からの被災地訪問研修の受け入れを民児協として積極的に行なっています。これまでに6月に「広島県福山市」、10月に「埼玉県川越市」、8月に「静岡県袋井市」、11月に「大阪市西淀川区」の各民児協の皆様にお越しいただきました。全国の民生委員・児童委員の皆様、今後もどうぞ研修においでください。